

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	情報社会論		
英文授業科目名	Information and Society		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-自由科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 システム工学科		
担当教官名	小林 宏一		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
nd4k-kbys@asahi-net.or.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a)主題： 情報通信技術が大きな役割を果たすに至った20世紀後半以降の時代を、情報化（社会）の時代という歴史的発展段階のひとつとして捉える考え方は、1960年代末、世界に先駆けて日本で提唱されたということはあまり知られていない。この講義では、まず、情報化社会論が提唱された経緯を当時の時代状況や社会理論の系譜に言及しつつ、情報化とは何かということをも明らかにしたうえで、情報化の可能性と問題点を象徴的に示していると思われるいくつかの事例をとりあげることを通して情報化社会の実相に迫っていくことにしたい。</p> <p>(b)達成目標： 社会学を専門とし、長年にわたり日本の情報化過程を見守ってきた私自身の体験をもとにして、「技術と社会」という長年論じられてきたテーマに関し、わたしなりの問題提起をするので、それをもとに受講生諸君も、このテーマについて自らの「視点」を育てていくことを期待する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>教科書：なし</p> <p>参考書：講義のなかで適宜推薦する</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

講義は、以下のテーマを順次論ずるかたちで進めていく。

- ・情報化社会は、どのような背景のもとで提唱されるにいたったか
- ・社会学の理論系譜のもとで、情報化社会論はどのように位置づけられるのか
- ・情報化社会は、どのような社会として捉えたらよいのか
- ・日本の情報化過程におけるいくつかの事例から「社会と技術」の関係性をさぐる
 キャプテンシステム/テレビ電話 顛末記
 地域情報化政策をめぐって
 デジタル化時代を迎えて
- ・近未来社会をうかがわせる諸動向と情報化

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法： 評価は、1) 集中講義の冒頭で行うプロローグ・テスト（情報化社会に生きる受講生諸君の現実感覚・問題意識を引き出すことを目的とした問いかけをする。当然のことながら事前の準備は必要なく、「平常心」で答えてもらえばよい）と、2) 最終講義時間に行うエピローグ・テスト（問題は事前に発表するので、準備をしっかりとしておくこと。また、試験時におけるノート等の持ち込みは認めない）によって行う。

(b)評価基準： 上記二つのテストを判断材料として、受講生諸君の情報化（社会）に対する理解・認識度、「技術と社会」に対する認識的確性が、講義開始時と終了時においてどのような進展を見せたかを基準にして評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

非常勤講師なので、講義期間中、その後を問わず、相談には冒頭に掲げたメール・アドレスを使ってほしい。

【学生へのメッセージ】

今年度は集中講義として行うので、期間は短いですが、一日数時間連続で講義するという形態をとるので、集中力をもって講義に望んでほしい。

【その他】